

平成24年度第8回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

会 議 記 録

【平成24年8月23日(木)】

I 日 時 平成24年8月23日（木） 19：00～21：25

II 場 所 浦和コミュニティセンター第13集会室

III 議事次第

1 開 会

2 議 題

(1) 評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について

3 その他

4 閉 会

IV 出席者

1 委員（12名）（敬称略）

委員長 廣瀬克哉

委員長職務代理 長野 基

委員 伊藤 巖、河西純恵、木島好嗣、須藤秀人、高島 清、  
橋本克己、福崎智恵、星野真一、町田直典、三浦匡史

2 事務局（6名）

井上靖朗（政策局総合政策監兼政策局都市経営戦略室長）

中井達雄（政策局都市経営戦略室副理事）

西尾真治（行財政改革推進本部副理事兼政策局都市経営戦略室副理事）

中野英明（政策局都市経営戦略室参事）

大西起由（政策局都市経営戦略室副参事）

鳥海雅彦（政策局都市経営戦略室主幹）

## 1 開 会

### ○司会

定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、これより平成24年度第8回「しあわせ倍増プラン2009」市民評価委員会を開催させていただきます。

なお、本日は栗原委員、高木委員様より欠席のご連絡をいただいております。また、木島委員、須藤委員、橋本委員様より若干遅れる旨のご連絡をいただいておりますこと、ご報告申し上げます。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をご覧ください。

まず次第でございます。以下、座席表、市民評価委員会開催日程予定を配付いたしております。そのほかの資料でございますが、「平成23年度達成度評価・要チェック事業について」と題した資料、委員評価一覧、市民評価報告書（素案）、市民評価報告（案）一式でございます。また、市民評価報告会のチラシをおつけしております。

そのほか、机上の封筒内の資料でございますが、第7回委員会会議録未定稿、そして、第6回の委員会の会議録確定稿、委員所管「評価を終えて」という様式1枚ものとチラシ20枚を同封させていただきます。

以上が資料でございます。

本日は、前回の委員会でヒアリングによる評価を一通り終えたところでございますので、評価の取りまとめを議題といたしまして、特にヒアリング対象外の資料についての最終のご確認、ご協議をいただきたいと思っております。そしてまた、報告会の進行等についてのご協議をよろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、廣瀬委員長にお願いいたします。

委員長、よろしくお願いいたします。

## 2 議 題

### (1) 評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について

#### ○廣瀬委員長

それでは、これより次第に従いまして進めてまいりたいと思っております。

本日は、議題としては(1)評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等についてということになりますが、その中でまず今説明にもありましたように、前回の委員会まででヒアリングによる評価は全部終了して、ヒアリング対象外の事業については、最終確定に少し迷いといえますか、議論が必要なものが何項目かあるということで、これについて再検討をお願いして、14日の火曜までということ、10数項目でしたでしょうか、特に分布の難しいものについてご指摘をいただいた上で、再度評価の変更やコメントに変更があった場合にはお申し出をいただくということで取りまとめを進める途中の

ものというのがございました。その申し出を受けまして、委員の評価の変更等を踏まえて取りまとめたものが今日席上配付をされておりますけれども、まずこれらの事業についてどう最終確定するかということを確認したいというふうに思います。

では、23年度達成度評価要チェック事業についてということと、その委員評価一覧というA4縦のものとA3の横のもの、これをセットで見ただきながら、まず取りまとめの結果につきまして事務局から説明をしていただいで、それで確定の仕方について確認をしたいと思います。

では、事務局から説明をお願いいたします。

## ○鳥海主幹

資料に基づきご説明いたします。

先の委員会を踏まえまして分布割れがあったものが多数ございまして、それに係りますパターンを幾つかお示しした上でご確認いただきたいという資料を先々週の金曜日に送付させていただいたところでございます。事務局で分布割れのパターンを幾つか分けたところですが、さらに精査した結果、達成度評価取りまとめ基準として前回委員会で決定した原則基準のほかに3パターンの基準案を資料としてご用意させていただきました。

平成23年度達成度評価要チェック事業についてという資料でございます。まず基本的なルールといたしまして、基本的には最頻値が過半数8人に達している場合は、最頻値を委員会の達成度として採用することとします。そして、最頻値が同数の場合は、ベクトルがついているプラスかマイナスがついているほうを採用するというのを原則としております。これについては、前回の委員会でご了承を得られた事項でございます。

それ以外につきまして私どももいろいろ検討いたしまして、上記以外の分布の場合の取りまとめ基準として3つの案をご提示させていただきたいと思っております。

①案は、山が大きい小さいはあれども最頻値をとるという一つのルールです。

②案として、基準Aとしてありますが、最頻値より上または下の達成度の合計人数と最頻値と人数を比較した場合、最頻値と同数、または人数が多い場合は最頻値より一つ上、もしくはその下をとるという方法が基準Aでございます。

また、③案として、基準Bといたしました項目が、まず一番多い人数の進捗度「a・b・c・d」の中でどれが一番人数が多いのかという見方をします。そして、次にその「a・b・c・d」が決まりましたら、その中で一番多い人数の質的要素、プラスが多いのかマイナスが多いのかを第二順位として選択する方法、③は以上のように「a・b・c・d」でまず分ける、その上でプラスマイナスを見るというのが③でございます。それを下の表に入れております。

ここに12事業ございますが、市の内部評価と今の3パターンによる評価を表しております。

そしてまた、下のほうにある23-4、39-3事業にかかる分布につきましては、今申し上げたパターンに当てはまりつつ、なおかつ進捗度「a」、「b」

とも同数の場合でございます。次の表をご覧くださいと思います。A3版資料でございます。

それぞれ今申し上げた①②③のパターンがあるわけでございますが、最終的に事務局の考えとしては、基準Aのパターンを採用したらどうかと考えております。この分布一覧の外部評価欄にはすべて基準Aのパターンを記載させていただいております。

どれが一番いいかというルール決めはなかなか難しく、ある種一長一短があるのかと思います。ここで特に分布割れがあった場合の整理の仕方として3つのパターンが考えられるのかということでお示ししました。本日はまず、これらパターンのうち、委員会としてどれを採用するか、どう整理するかというご議論をいただきたいと思います。

そしてまた、厚い資料、委員評価一覧でございますが、事務局では先ほど申し上げました基準Aのもとに外部評価を記入しております。それと前回の委員会後、委員長を始め福崎委員様、河西委員様等から評価の修正、またコメントの修正もいただいております。資料の中の網がかかっている部分のご意見の変更があった部分でございますが、整理をさせていただいております。ご確認をいただきたいと思います。

なお、後ほどご説明します報告書案の数字も、暫定的ですが、基準Aをもって集計、掲載させていただいております。

資料の説明といたしましては以上でございます。

## ○廣瀬委員長

どうもありがとうございました。

このパターン（1）という12項目とそれからパターン（2）という2項目については、一応ここでは基準として、①最頻値をとるか、②基準Aをとるか、③基準Bをとるかということ、一応Aがよいのではないかということ、いろいろな作業はこのAを仮のものとして一たん入れて作業をしていただいたということでもあります。

さて、今、説明をお聞きいただきながらこの一覧表とそれから分布自体をグラフに落とし込んだものがA3の資料で、この14項目プラス参考値のものというのが出ていますけれども、いかがでしょうか。

本当にいろいろなパターンの分布がありますけれども、それをこの一覧表で見てもわかりますように、基準Aのほうがある集団というか、メリハリがついたといいますか、方向性がより明確に出る形に確定をすると、最頻値にしても基準Bにしても割と丸まった形になるというのですか、そういう感じになっています。

上の四角で囲った同数が並んだときに特徴を打ち出すためにメリハリをつけるという趣旨で、例えば「b+」と「b」が並んでいるのだったら「b+」にしよう、「b」と「b-」であれば「b-」にしようというような考え方で、ほかのものの中にこういうふうに確定したものがたくさんあると、それが例えば下の2段目というのでしょうか、最頻値が同数の場合をどうしたかとい

うことでいうと、16と40はプラスの側と何もついていないのが同数だったのでプラスのほうに確定をし、54-4については、「b」と「b-」ということなので、「b-」のほうになっていると、54-4であればそれにあわせて、かつそれ以外にも「c」が2人いらっしゃるということからも、これは「b」に確定をするより「b-」に確定するほうがというのも自然かなと思いますが、そういうことと照らして、上のほうにあるパターン(1)12項目、パターン(2)2項目ですが、事務局からのご提案としては、基準Aというメリハリが明確に出る側でいったらどうかということで提案をいただいています。

### ○井上総合政策監

例えばですが、47番からでいいますと、今こういう分布になっているときに、これで最頻値という形になると「c」になるわけですがけれども、「c」より下にいっぱい「c-」、「d+」、「d」というのをつけていただいております。仮に「c」が7人で「c」のマイナスが7人の場合は、原則に戻ると「c-」になるわけですね。それが「c-」からさらに下の達成度がついたときに、最頻値をとって「c」になるというのは、直感的にはやはり違和感があるのかなということもありまして、やはり前回、須藤委員からご指摘もいただきましたけれども、重心というか、やはりバランス的にそういうふうに見たときに、それより原則一番初めに三浦委員からご指摘いただいたように、同数であればベクトルがついているものというふうには、さらに引っ張るものがあればそちらのほうに引っ張った形で評価を確定させたほうが、反対に見たときにもほかの原則の一番初めの評価方法と比べても整合性がとれているし、結果においても先ほど委員長からご指摘ありましたように、内部評価と差が出ますので、そこにやはり皆様に評価していただいた結果というか、意義は出てくるのかなという気はしております、基準Aでどうかというふうには考えているところです。

### ○廣瀬委員長

どうぞ、三浦委員。

### ○三浦委員

皆さんの意見を伺いたいのですが、39-3、防災ボランティアコーディネーター養成と避難場所運営体制の構築だけが「a」と「b」をまたがる移動をするんですね。ほかはどうもそれはしないようなのですよ。だから最頻値が「b」なのに引っ張られて「a」になるというのがこの例だけのようなので、それが確認できればいいかなと僕は思いました。

### ○廣瀬委員長

はい、どうぞ。

### ○福崎委員

私もその39-3だけずれているなと思って、どのように確認、確定をされたのかずっとちょっと考えていたのですがけれども、ほかのものは「b」ないし「a」ないしアルファベットの中で一番数が多くなっていて、ほかのものにまたがろうとするとその進捗度自体が全員の思考とずれてしまうという点があ

って、アルファベットに対して進捗度に対しては、その枠の中でおさまるようにしているということがちょっと読んでいてわかりました。

39-3については、アルファベットの進捗度のほうも7対7で同数なので、今回は真ん中あたりをとるということで、1個上に上がって「a-」にされている。とりあえずまずはそういう理解をしました。

では、偶数なので、「b+」が真ん中なのか「a-」が真ん中なのかという重心という言葉を使って考えると、私も何とも言えないのですが、個人的なご意見をということで話を振っていただいたので、私の個人の意見を述べるとしたら、山を見たときに真ん中、重心という形で、特に「a+」、「a」、「a-」、「b+」、「b」という分布をしているので、「a-」でもいいのかなとは思いますが。ほかにも皆さんがどういうふうに「a-」を選ぶか、「b+」を選ぶのかというのは私もぜひ聞きたいと思えます。

#### ○伊藤委員

私が見直したのは、ボランティアコーディネーターと避難場所の運営体制の関係で、そういう打ち合わせに出ていて前向きな感じがして、今取り組んでいる状況であるということなので、最初に評価したときは多分低かったと思うのです。ただ、それを運営に当たってこれから進めていく段階では、少しは進んでいるという前提でプラスにしました。やはり実態を伴ってきた、時間的なずれはあるにしろ、前向きになってきている状況を知っているということでプラスに変更したということです。

#### ○須藤委員

よろしいですか。39-3についていえば、この「a-」でいいと思うのですが、というのは「b+」は過半になっていないので、最頻値といっても過半になっていないものをそのまま採用するというのはちょっと違和感があるので、それでその「a-」と「a」と「a+」、この3つを足すと7人になるわけですね。要するに重心というか、その単純平均というあれとはちょっとまた違いますけれども、「b+」よりも左側に全体の傾向があるというところを見れば、「b+」でなくて「a-」でもいいのかな。確かに評価は「b」から「a」に変わりますけれども、そうでないとこの「a+」と「a」と「a-」の意思という、そういう人たちの意思というのは全く死んでしまうので、この「b+」が過半になっていけば最頻値という基本的な考え方でいいかと思うのですが、過半になっていないので、6人しかいないので、全体の重心といえますか、そういうところを考えるとやはり左にシフトしてしかるべきかという気はいたしますが。

#### ○廣瀬委員長

一番この「a」と「b」にまたがって動くというところではありますが、分布全体を見ると、ここまで出たご意見はおおむね基準Aに従って確定をする「a-」で妥当なのではないかというご意見が出てきたということだと思います。

それ以外のものについても裏返していえば、それ以外のものについては「a」、

「b」、「c」にまたがるわけでもなく、おおむね妥当な線に基準Aで落ち着いているのではないかということ的前提に、しかし、一番難しそうなものとしては、39-3だろうと、それでもそれについてもそれでよければ基準Aの判定でいいのではないかというニュアンスでご発言いただいたかと思いますが、ほかのものも含めて総合的に見て基準Aの適用で確定をするということと異論のある方いらっしゃいますか。

(「なし」)

では、よろしければそのような形でヒアリング対象外を含めまして今年の評価対象についての評価は、以上の基準に基づいて確定するという事で確認をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

では、以上でまず各項目についての「a」、「b」、「c」またそれぞれのプラス、マイナスこれについては確定といたします。

それでは、これをもとにしまして、今度は市民の皆さんに我々の評価報告をするということになります。まず報告書として印刷物として公表される形になる報告書のまとめ方についてということで、前はちょうど目次の部分だけ、このような構成にしようということの確認で終わっておりましたけれども、先ほど確定した基準Aで仮に集計も済ませた上で一たん報告書の素案をつくっていただいています。今日の席上配付ということで、まずはその概要について準備いただいた事務局のほうから説明をいただいて、これをもとに最終的にどういうふうに議論をして、いつまでに確定をするかということについてこれから検討を進めてまいりたいと思います。

それでは、まず事務局からこの報告書素案についての概要、そのポイントについて説明のほうをお願いいたします。

### ○鳥海主幹

お手元の報告書素案と題した資料でございます。事前にお送りできればと思ったところなのですが、送付に間に合わず申し訳ございませんでした。まずは事務局のほうで全体構成、作成に至りましたポイントですとか、提言等重要な部分につきましてご説明いたします。

前回の委員会での議論の中では、去年は中間年としての提言としての取りまとめ方をしたというのが大きな点でございましたが、今年度は3年度目の年、またプランの最終年であるというところが大きな違いの部分かと思えます。

また、ご意見の中では、プランそのものの策定段階から少し問題があったのではないかという指摘が初年度からずっとあったところがございます。

前回の委員会では報告書の目次案、委員のご意見をお示したところですが、その柱を踏まえた委員のご意見等踏まえて報告書素案を作成しました。では、ご説明いたします。

まず、全体のボリュームでございますが、全体で106ページと、昨年度の報告書が92ページでありましたので、若干昨年度より厚くなったというところでございます。



表紙をめくりますと、委員会として「はじめに」といった内容の文章をおつけしております。

目次と照らし合わせながら進めていきますと、1ページ目、評価の意義と題して、しあわせ倍増プランとは何か、また委員会の評価の目的を1ページの中に整理をさせていただきました。

2ページ目です。評価の実施といたしまして、ただいま申し上げた23年度が3年度目の年であるということ、プランの最終年であるということ、また3ページ目ですが、評価の対象といたしましては、これまで139事業としてきたわけですが、達成事業を除いた、また番号56番のベンチャービジネスプロジェクトの2事業を一本化したことによりまして、計123本の事業につきまして評価をしたということを表記しております。

まず、達成済みはどういった事業なのか、ということで4ページに一覧で載せております。この辺は多少字が細かいので、さらに整理が必要かと思っております。

そして、今年の大事な部分の一つでございます。5ページ、6ページ、これは1枚におさめたいと思っておりますが、評価の基準でございます。昨年度が「a・b」といった進捗度に対しまして、加減要素をみた11区分の評価でしたが、その点数方式の評価基準について、今年は今までを振り返りつつ一番わかりやすい表現に戻ろうという形で、プラスマイナスの表記をした格付け方式にしたということ、細かく分けると12区分あるということをお示しいたしてございます。

次に、7ページの部分でございますが、昨年度委員会のほうから市側に対しましていろいろなご提言をいただきました。評価そのものに対して目標の設定の仕方、また継続の進行管理の仕方などいろいろとご提言をいただいたわけですが、今年度評価を実施する前に市側で特にこういうご対応させていただいたということをお示しを7ページに入れ込んでおります。そういった手法をもってシート、様式等を変えた点、工夫を凝らした点、それを受けて期間を短縮した、ということをお示しを記載してございます。

期間の短縮という意味では、去年が50事業、今年が結果32事業のヒアリングをいたしております。そのヒアリングにつきましても、どういった基準があったのかということをお示しを8ページ、9ページに掲載しております。また、今年度評価に際しまして、24年度単年度目標を打ち立てた際に目標修正をしている項目が10項目、9ページにございますが、これらもヒアリングをしたという経緯がございました。

10ページ以降が数字をもとに集計したものでございます。10ページでございますが、達成済みの事業が15事業、以下「a」が16事業、「b」が83事業と、計114事業という形になります。先ほど申し上げた創業支援事業を一本化したことによりまして、分母が138事業となり、138分の114が82.6パーセントという結果になりました。表現として全体の8割以上が達成している、おおむね達成しているという言い方ができるのかと思っております。

11ページに過年度と比較しまして若干ではございますが、全体として昨年度よりは進捗が進んでいるということがいえるかと思えます。特に一つ言えるのは、22年度が「b」項目であったのが23年度では「a」もしくは達成済みの域に入ったということが大きなところかと思われまます。

以下、12ページ以降になりますが、分野別で見た評価結果になります。評価項目ごとのやや濃い黒めの色の凡例になっており、多少見にくいところなどがありましたら改善したいと思えますが、このような形になっております。

13ページ以降、過年度と比較しつつ計10個の分野について分析をしてみました。分野ごとの大きな違いというのはなかなか見えにくいところですが、また事業によっては市民・自治などは3本しか事業がございません。なかなか分野別の特徴、他分野との比較は難しいところですが、傾向の一つとして言えるのは、15ページの下、高齢者の事業につきましては、去年もそうだったのですが、シニアユニバーシティですとか、シルバーバンクですとか、その辺につきましてはなかなか事業に難ありと進み具合が悪かったという事業が続いているということでございます。

また、16ページでございますが、先ほど伊藤委員からのご指摘があった防犯ボランティアコーディネーター、この辺の防災の分野、もしくは環境、エコ、エネルギーといった分野、これは先の震災の影響もあることと思えますが、市のほうも積極的に取り組んで頑張ったと、それを受けての高評価に結びついたのかなと思われまます。

そういった外的要因も踏まえて市の取組がやや進んだもの、やはりまだ問題があつてなかなか事業の進捗が思わしくない分野もあるということが見えた状況かと思えます。

次に18ページ、19ページ、評価の変動があつた項目でございます。見開きになっておりますが、この中で特に見るべきポイントとしましては、評価が2段階上がったものとして、39-3番、防災体制の構築、避難場所の運営委員会の設置、ボランティアコーディネーター養成ですが、この事業については「c」から「a」にランクアップしたということになってございます。

また、その逆の2段階下がってしまったというのが19ページの真ん中の部分で、23-2番、子育て支援センターの活用と51-1番、都市公園の整備、これが「a」から「c」に下がったという事業でございます。

それらを踏まえて20ページ、21ページで、今申し上げた点を比較分析してコメントを載せております。

また、「c」から「c」の事業、また「d」から「d」の事業も一部ありますが、これらの事業につきましては、やはり問題があるのか、もしくはそもそも目標設定が適当ではなかったのかという警鐘を鳴らしたコメントを添えております。

評価の変動があつた項目は18ページから21ページに整理させていただいております。

続きまして、22ページですが、評価委員会の評価と市の内部評価の差とい

うことですが、「a」、「b」、「c」、「d」という進捗度だけ見ますと、ほとんど変わらなかったと、「a」で1個、「b」で1個の違いがあると、しかしながら、23ページでございますが、プラスマイナスを入れた12区分で見ますと、15個の事業で変化があります。注目すべき事業としては、内部評価より委員会の評価のほうが高かったのが2事業、40番の事業と51-1番の事業でございました。そして、進捗度を超えて評価が変わったものが38-4遊休地を利用した多目的広場です。これは、逆に私ども内部評価「a」に対しまして、委員会のほうが「b+」になっているということでございます。一応プラスマイナス12区分で見るとこれだけの差が実はあったということが改めてわかりました。

それにかかわりますコメントも24ページで考察的に載せてあります。

25ページからの部分でございますが、(4)から(7)については前回の委員会での目次の議論をした際にはなかった項目でございますが、改めて入れ込んでみまして、まだ事務局としても整理等が必要と考えておりますが、今日ご議論、ご意見等をいただきたいところでございます。

(4) 評価委員会の各委員の評価の特徴、要は先ほど申し上げた評価のばらつきについて、こういうものがありましたということをここで入れております。ここに2例を入れておりますが、先ほどのA3の資料のとおり、ばらつきという意味ではいろいろなパターンが実はあったと、こういうばらつきを見せる見せ方というのは、今回の評価結果の特徴として重要と考えます。平均点方式ではなく、実は委員さんの中ではこういった意見の差というのでしょうか、ご意見、評価の違いがあったこと、それを分布図で表したいと整理したものが25、26ページでございます。

そして、27、28、29ページ、こちらは前回須藤委員からご指摘のあったものでございますが、これらの中には27の重点項目、計65の事業がプラン上、重点項目として位置づけがなされております。しかしながら、この重点項目については、評価委員会の中でも内部評価でもこの重点項目のみに対しての特別の進行管理、また評価の特別の見方を今までしてこなかったところもありますが、プランに位置づけてある以上、これまでの結果として今の段階ではどうなったかというのを27、28、29ページで入れ込んでございます。

これとかなり重複するのが次の30ページのところで、プロジェクト事業の達成度です。プランにはここに示す7つのプロジェクト事業があり、このプロジェクト事業と先ほどの65本の重点項目の事業がほとんど重なります。重点項目とこのプロジェクト事業について合わせて評価結果を表記する方法も一つあると思っておりますが、また後ろのほうの資料編で整理させていただくのも一つの方法と考えております。いずれにしても重点項目、プロジェクト事業とも市が位置づけた大事な施策について、市がどこまで取り組んだのかということについての市民評価結果をお示ししたいと整理したものでございます。

そして、(7)32ページでございます。これも報告書に入れるかどうかといったご議論もあるかと思っておりますが、今年度、4年間の目標に対する達成度見

込みを内部で実施し、市民評価の参考情報として個票にお載せしたわけでございます。このことについて委員会のほうで特に議論はしなかったわけですが、ここでプランの最終年という時期が来たということと、一部ヒアリングをしていた項目の中では、24年度目標、また4年間達成度との比較も含めて分析、コメントがあったものもありました。今年4月時点での内部評価では約9割程度が最終的には目標達成するという、分析を添えております。

そして最も重要な部分になります。34ページから38ページまでが提言の部分でございます。去年が中間年ということでいろいろなご提言をいただき、それを受けまして、市は最終目標達成に向けて進めておるところですが、本年度の提言の整理の中では、個々の施策について今後の事業展開の方法論等については深くは整理をしていません。3年間を振り返って、特に議論があった目標設定のあり方ですとか、それをするときやはり次期プランの目標のあり方ですとか、そういった議論が今まで大分多かったと、最終的にはそれを踏まえつつポスト倍増プランというのでしょうか、次期計画のあり方、評価のあり方、それを受けて市民評価委員会としての意義、関わり方、そして、市民に対する最終的なメッセージというような論調で整理をさせていただいております。

34ページについては、今までの議論の経緯、経過、次期の目標に関わります論点がこのようであったと述べております。

今後の計画における目標の設定についてという中で、①といたしまして、やはり成果指標にはどちらかというとアウトプットといった数値、数量的なものより成果を前提とした目標設定が大事なのではないかと、いろいろな事業については、数字だけではなく、数字のその先にある成果は何だったのかと、その目標設定が大事なのではないかと、そういう設定が必要だと考えるというまとめ方を①のところで提言しております。

そして、②でございますが、①を踏まえまして、事業の本来の目的を踏まえた適切な設定の仕方を提言しております。

そして、③の部分では、今日いろいろな事業においては、社会福祉協議会さんであるとか、もしくはいろいろな団体さんですとか、また新たな公共の担い手という考え方もあると思いますが、いろいろな関係の方々との連携や調整が目標設定の過程の段階から大切であるという指摘を③の中でさせていただいております。

それらを踏まえまして、次へどういうステップとすべきか、どうあるべきなのかということ（2）今後の施策の推進に向けてとして、①積極的な施策・事業のPR、②施策の推進に当たっての庁内連携の充実を掲げております。

ここでは手法的な部分で、やはり事業のPR不足、周知不足があり、もっと工夫が必要ではないかということ強調しております。

そして、橋本委員さんのご指摘もございましたが、やはり一つの事業を一つの事業課だけで進めるよりはもっと関係所管等が協力し合っただけを超えた連携プレー、そういったものがもっと必要なのではないかと、今まで以上にさらに充実すべしということ強調しております。

そして、38ページでございますが、これらを踏まえまして、評価としては8割を超える事業がおおむね目標どおりかそれ以上という評価になったこと、一方ではまだまだ進捗の遅れがあるもの、それが取り戻せなかったもの、また新たな原因が生じたものもあろうということをおうたっております。

今年度、そして3年間を振り返っての整理としての提言としての整理をさせていただきます。最終的にはこの報告をもって、市民評価委員会としての評価結果を市側で活用していただき、さいたま市の発展に結びつけていただきたいというふうな結びでまとめさせていただきます。

以下39ページが委員所感の部分、47ページ以降が139項目のすべての事業にかかります今年度の委員さんの意見、分布図、単年度目標に対する実績、40ページ程度になっておりますが、個票を整理したものをおつけしております。

以下、88ページ以降が参考資料となっておりますが、そのうち新たなおつけした資料が93ページの資料、しあわせ倍増プラン2009総括表（24年度目標・4年間達成度と内部評価）の状況でございます。

報告書素案にかかります説明は以上でございます。

#### ○廣瀬委員長

どうもありがとうございました。

それでは、今日までかかってとりあえず素案をつくっていただきましたので、内容の詳細まで今日の段階で初見ですから、検討しきれない部分もあると思いますが、まずは全体の構成や章立ての観点で、前回から若干加わった項目もありますので、目次のあたりを見ていただきながらこういう構成でよいかどうか、あるいは落ちていること、あるいは内部評価について、内部評価としてホームページ上等で公表していただくので、我々がやった評価でない部分についての扱いをどうするかといったようなことについても若干検討は要るかもしれません。

第1章と第2章は、何のためにやったかということを具体的にどういう方法で何を対象にしてどういう基準を立ててやったかという事実関係ですから、これは例年どおりというか、昨年と若干変わった部分もありますので、そこを説明すると、評価結果をここまで今日の段階までですべての対象となった事業についての評価が確定をしましたから、そのいろいろな角度からの集計、分析をしてこうであったという評価結果を解説していくというのが第3章、それをどう読んで今後どう生かさなくてはいけないか、あるいは生かしていただきたいと我々が考えるかということが評価委員会からの提言、委員会からの提言は、いわば合議体としてここで話し合った結果として、この委員会としてはこういうことを言おうというメッセージで、一人一人の評価を終えての感想としては、それに加えていろいろと伝えたいことがあるということで、これは去年までも行ってまいりましたけれども、第5章のところでは一人一人の委員からの評価の所感を述べるということで、ここまでがいわば評価、評価委員会としての評価をしたことで、それ以降の部分は、確定をした評価結果について

ずらっと一覧表が139項目並ぶということでもあります。その後ろには事実関係についての資料があると。

どうぞ。

### ○福崎委員

25ページの評価委員会各委員の評価の特徴というところで気になる点があります。これは6ページのところの評価基準の説明につなげて載せるべきではないかなと思うのですけれども、ここに書かれていることって評価の結果の分析というか、何と書いていいか、総意、私たちの総意に基づいていて、総意を決めるための方法をこの(4)番というのが説明していると思うのです。ここまでにいろいろな分析、円グラフとか表を使って説明してきたのは、全部私たちの総意の結果を使っているものなので、ここの分析を始める前にやはりこんなふうに委員会の総意は決めましたということで、前に持ってきたほうがいいと思います。

### ○廣瀬委員長

今日やった部分もですよ。どういうふうに全体をまとめるかということについてもかなり前回、そして今回と議論をしましたし、この基準の立て方、「a」、「b」、「c」、「d」でそれぞれにプラスマイナスがあるということ、そして、分布をこういう形で集計をして、全体はこういうふうに固めてそれから分布はこういうふうに起こすということであって、25ページの部分は、そこも含めて評価の基準の立て方、5ページ、6ページに続けてということですかね。

### ○木島委員

ここの評価の特徴というのは、これ自体を載せる目的というのはどんな目的なのでしょうか。

### ○井上総合政策監

福崎委員からのご指摘もおっしゃるとおりで、この部分は実は前に出てくる話で、これは何をしたいかという、まさに今日やっていただいた評価がずれたもの、ぶれたものはなぜぶれたのかというところの分析を本当に書こうと思ったのですけれども、そこに間に合わなかったのが事実関係のところまでしか書いてないのですけれども、今日まさに一番初め見ていただいた一覧表でぶれたもので共通するものが2点ありまして、一つは個別の項目で目標はいろいろなものがいっぱい載っているもの、例えば防災ボランティアコーディネーターの評価が「a」と「b」で分かれましたが、あれはなぜ割れたかという、同じ事業の中に防災ボランティアコーディネーター養成の話と避難場所運営委員会の話と両方あって、それでそのどちらを重視されるかで評価が割れたというようなことがあって、ほかの項目にもそういう面があります。そういうことを書きたかったのですが、それはちょっと間に合わなかったのです。

実は、それを次の目標を立てるときに、やはり同じ項目を入れるので、複数の項目を入れるのであれば、ウエートづけとかはっきりして目標を立てないと、評価するときがいいのか悪いのか、項目の中に片方ができて片方ができてないときにそれがいいか悪いかといった当然ウエートづけがないとわからないと、

評価される側としては判断に困りますので、その結果としてばらついてますねと、それは次の目標を立てるときに反映させてほしいと、本当は反映してくれというふうに評価委員会として提言したらどうかということによってこういう項目を立てたのですけれども、ちょっとこちらのほうの資料をつくるので手いっぱいまで書き込めなかったもので、意図としてはそういうことなので、まさにそういうのは木島さんへの答えで、そういうことから考えると、福崎委員がおっしゃっていただいたとおりに書いてあることはどちらかということ前に入れることで、そういうところをこの特徴の中にちょっと書き込みたいなということによって書き込んであるという趣旨です。

一つは、ばらついたほうの一つはそういう今申し上げたような複数の事業の中に複数の要素が入り込んでいる、そのウェイトづけがしっかりされていない部分、もう一つは、この中でこども博物館とか、それからコミュニティビジネスとか、途中でいろいろ変更したものとかというものはやはりその評価がばらつくので、これは目標の中にも書きましたけれども、そもそもはっきりした目標をきちんと立てよというようなことに最後の提言につながっていくのかなというふうに思っています。

#### ○廣瀬委員長

今、説明がありました、確かに現在のところ特に25ページに書いてあることというのは、こんなふうに分布をしてこういうふうになってばらつきというのはこういうふうに表現されますということに加えて、それを集約するときがこういうふうにしましたということを書いてあると、そこまではいわば評価の基準を立てたというのが5ページ、6ページのところで基準を立てたことの説明なのですが、基準を立てた上で実際に評価をして集約するときまでのルールを5、6ページの流れの中にまずは書いた上で、そうやって評価を集約したのだけれども、きわめて明確に集約というか、もうピークがぼんと出て若干のばらつきはあるけれども、もう明確にこれと集約できたものがあれば結構ばらけたものがあると、何でそういうふうに評価が一致しないのかということについて、その内容に恐らくは今日先ほど取り上げた要チェック事業というようなものが主としてこれに該当するのだと思いますけれども、これについて、例えば質的に違う目標値が二つとか複数あって、そのできばえというか、到達度に若干の差があったときにどちらに評価がより重点を置いて見ていったというところの差が出たものと、それから23年度に対して設定された目標について一定の成果は上がっているものの、元々の計画のときからいうと、ある種だんだん現実に合わせて目標値が変えられてきていて、変えられた目標値には合っているけれども、当初からいってどうなのというふうに重点を置いて評価をされた方は結構辛い点がつく。他方でそうはいっても23年度についてこれをやるという、それはそのとおりにやったのだから「b」ですねという評価をされた方もいらっしゃるというようなばらつきのところがあると、それ以外のものも精査すればもう少し分析的に出てくるかもしれませんが、そういうようなもの、そして、それに関連をしてこういうものの進捗、目標の設定の仕方とか、

進捗管理のあり方についての何らかの提言というか、意見というか、そういったものを載せていこうと。

25ページ、(4)が項目立てされているのがそういうことを意として項目が立っているという形だということでございます。

#### ○長野委員長職務代理

先ほどの委員長のご説明の中で、目標の変更に伴い、どれを重視するかによってどの目標に照らし合わせるかによって委員の評価が分かれたものではないかという解説をいただいたのに関連したのですが、いただきました今回の報告書の中に文言で遅れを取り戻すとか、進捗状況が遅れていますという表現が繰り返しある、特に遅れを取り戻すという表現がたくさん出てまいります、これは実はどの工程表に照らし合わせてその目標が回復したのかという参照元がないという点が問題になるかと思えます。つまり青い冊子、プラン当初の4年間の目標というので、工程表に照らし合わせてそれにも追いついたという意味で使っている場合なのか、そうでないのかによって少し認識が違ってくるかと思うので、ここは事務局のほうでここはこういう意味で使ったというふうにご解説いただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

#### ○井上総合政策監

基本的には「c」から「b」ですが、単年度目標の動きですけれども、想定して書いたのは青い冊子の倍増プラン本体に対しての当初工程表に戻った、あるいは22年度時点で遅れていて達成できなかったものが23年度で達成できた、例えば条例でこども総合条例の大会宣言の話ですとか、文化都市創造条例のように元々22年度末までにというふうに書いていたけれども、それは22年度中にはできなかつたと、23年度に条例つくりましたということですから、子どもの不登校からの復学とかも22年度で目標達成しなかったものを23年度は当初の倍増プランの目標を達成したということ想定して取り戻すという、遅れを取り戻すという動きでございます。

#### ○長野委員長職務代理

ただ、我々の委員会はいくまでも単年度で設定されていた、つまり当初の工程表ではなく、あくまでも4月1日時点でこういう目標にしますという再設定された目標に対して、どう「a」、「b」、「c」をつけるかという評価、作業を行ってきて、その結果として「a」、「b」、「c」がついたということになっていますので、それを見て評価が上回ったというような単年度に評価結果ごとを比較した上で評価が上回った、進捗が取り戻したというふうに使われているように読めるところと、井上さんのお話しにあった4年間の当初の工程表に照らし合わせて目標がキャッチアップできたというふうに使われている箇所というのは、どうも初見ですが、ばらついて設定されているように拝見したところです。

#### ○井上総合政策監

確かに今私が申し上げた趣旨は、遅れを取り戻すような目標を設定してそれをちゃんとやったということですので、それを省略してしまうと、今、長野先



生がおっしゃっていただいたような少し混同が生じているのではないかというふうに思います。それを少しすみません、どういうところにどういう使い方をしているかというのは、もう1回少し精査をしていきます。

### ○長野委員長職務代理

それを繰り返して恐縮ですが、なぜこだわるかと申しますと、市民、これを読んだ方がプラン全体としてどうあったのかというところをととても端的に読み取れる箇所にといいますか、決め言葉も使われていますので、そこは少し我々として大事にしなければならないと思いますけれども。

### ○福崎委員

その目標に対して遅れを取り戻すというところで私も最初の説明を聞きながら何点かチェックを入れていたところがありました。実は、長野先生がおっしゃっていたとおおり、単年度目標ごとに進捗度は評価していたと思うのですが、私は場合によっては単年度目標と最初の当初の目標にずれがあるというか、このままではやはり当初の目標というのは達成できない、もちろん目標途中で変化されたという場合もあるので何とも難しいのですが。最初の目標も加味した上で進捗度を評価していたところがあったので、単年度だけを見ていたわけではなかったのですよ。なので、遅れが生じていますという点や遅れを取り戻したという点は、そのまま最初の青い本の目標に対してどの程度進捗したのかというふうに書かれているというふうに読んでいました。

例えば14ページから17ページで各分野に評価結果を分析されている中で、新たに遅れが生じていますという表現や遅れを取り戻すことができず、または遅れを取り戻したというような表現が出てくるのですが、ここにやはり何の遅れを取り戻したのか、どこの時点にどの目標に対して追いついたのかというものはやはり一言あったほうがいいのかと思います。私たちは当然これに対する遅れやこういうことに対する評価基準だというふうには、この中ではあると思うのですが、初めて読まれる方というのは、もう少し説明があったほうがいいのかと思います。

### ○井上総合政策監

そうですね、遅れを取り戻すという元々のイメージとしては、18ページ、19ページのところ、ここの分析の中で使いたいと思って書いたところがありますので、結局前回もありましたように、進捗度の全体的なものは昨年度と余り変わらないのですが、内訳を見ると、「c」から「b」になったものもあって、逆に「b」から「c」になったものもあってという、その中でいうと昨年より上がったものが多いというところ、それから24年度に関しては、目標変更したものが相当数ありますけれども、23年度は一応市の単年度目標を立てた気持ちとしては、23年度の時点では遅れたら遅れた分を取り戻す目標を立てよとって立てさせたこともあるので、それで「b」がついたというのは、頑張ったという意識があって多分取り戻すという言い方を使ったというところがあるのだらうと思うのですが、今、福崎委員からご指摘いただいたように、12ページ以降のところなどは単年度の話なので、ここで遅れとか何と

かと言いだめると少しやはり後ろに出てくる話を先取りしていつている感もありますので、こういったところは端的に目標を達成した、できなかったというふうに書いたほうが誤解が少ないのかなというのは、今ご指摘をいただいて確かにそう思いました。

#### ○長野委員長職務代理

今のご発言に関しまして、やはり32ページで24年度終わる段階での目標、達成見込みということに関しまして、恐らく初見の方は、初見で見られる方で青い冊子の目標に対して達成したかどうかというふうに理解するかと思うのですが、我々評価作業をしていると、あくまでも単年度ごとに目標を切っていて、その切っていた24年度バージョンに対して達成しているかどうかを内部で評価したということでは理解をされていてということで、ちょっとずれが、初めてお読みになる方、市民の方と我々とずれがあるということをちょっと危惧いたしまして、この場合にはこれを使っているというふうに書き分けたいのかどうかはちょっとまだわからないのですが、少なくともここでお書きになろうとしていた32ページに関しましては、あくまでも24年度の目標として設定なされたことに対してですから、ある意味青い冊子での当初目標とは違う、リセット、再度設定されたものに対する内部のご判断なのではないかというふうに思われます。

#### ○井上総合政策監

32ページ、33ページは、これは実は24年度の目標の再設定したものは、4年間に関しては、それを加味せずに元々が倍增プラン本体に比べて達成したかできなかったかということを書いたところなのですけれども、初めに担当からの説明にもありましたように、それがそもそもこの報告書の附属資料でなくて本体の中に入り込んでいると、やはり読み手として少しどうかというようなこともあるかと思しますので、ここはそもそもこの章立てをするかどうか、あるいは条項として載せるにしてもここに載せることがいいかどうかというほうで整理したほうが読み手のほうの誤解は少ないのかなというふうに思います。

それ以外のところは、基本的には全部単年度目標に対して、単年度目標に変更があれば変更したものに対して評価というところで、その中で遅れ、あるいは遅れを取り戻すというようなことを仮に使うとした場合は、もう少しきちんとそもそも立てた単年度目標がそういう目標でそれを達成したということだというような補足をしなければいけない、正確でないと思しますので、そこまで回りくどく書くか、それとも少し割り切って単年度の話だけで書くかというのは、もう1回少し表現を見て確認したいと思します。

#### ○廣瀬委員長

その個票の中の最後のあたりの欄に、24年度に対して目標をどう設定したかという欄の一番右端のところに、それができたとして全体としてどうなのというのがこの4年間の目標に対する達成度の状況で、24年度に設定した目標ができたとしても、目標未達成というものが12項目あったとか、遅れがあるけれども、おおむねというのが6項目で、それ以外は大体目標は達成するのだ

ということになるかと思いますが。

#### ○木島委員

市民の方がわかりやすいかどうかというところで、全体の評価というところなのですけれども、件数がパーセンテージ達成したものがこれだけなんですというのはわかる、そのようにはなっていると思うのですが、委員の1人としてこれは良かったのか、悪かったのかというのを提示する必要というのはあるのか少し議論をして……。

#### ○福崎委員

今の木島委員の意見に続く形なのですけれども、やはり委員会としてどうだったのか、良い悪いというのはとても簡単な表現だと思うので考える必要があると思います。例えば、22ページのところに表現として評価委員会の評価と内部評価の差はほとんど見られませんでしたというのが一つ締めくくりの言葉というか、総括したような言葉が載っているではないですか。こういう表現とか、ほかにも今の木島委員の意見は、表現としてまだ書かれていない部分、意見があって、委員会としてどう見るかというものは必要かと思います。ただ、私もどういふふうに議論を進めればいいのかというのはちょっとわからないのですけれども。

#### ○木島委員

このまま提示して市民の方々にこの数字を判断していただく一つの方法だと思うのですけれども、ちょっとわかりにくいかと思うのです。

#### ○廣瀬委員長

つまりよくできている、できてないみたいな質問が当然出ていますよね。

#### ○井上総合政策監

去年も議論になったところで、去年も皆さんに報告書の中でご指摘いただいたように、数字でいうと8割できているからまあいいような気もするけれども、でも個別で見ていくとちょっとなんか数字はいいけれども、実態が伴っていないのではないかというようなのがご指摘だったかと思ひまして、去年は割とそれをストレートに書いて、我々としても議会側とか、あるいはマスコミとかにどうでしたかという、どういう評価でしたかというときに説明するときには、非常にわかりやすいというか、そういうふうなことだったので割とクリアに理解していただいたかなという感じはしていますけれども、今年そこをどういう書き方をするのかというのは。

#### ○木島委員

多分去年も同じような議論をしたとは思いますが、そもそも8割というのが良かったのか、なにか多そうには見えるのですけれども、逆に言うと2割はどうしたのかと。

#### ○廣瀬委員長

去年は確か8割というのは、初年度というのは数か月しかなかった、去年の評価対象というのは、ようやく丸々1年かけてやったもので、いよいよ本格的に着手しましたね、まず着手段階としてはやりましたねと、だけれども、その

段階からもう遅れているのがあるのだけれども、これはどこに課題があるのでしょいかと、いろいろなタイプの遅れ方、未達成というのがあるので、こういうタイプのものはここを改善しなければいけないでしょう、こういうタイプのものはこういう点を頑張ってくださいませうみたいなことを割とストレートに出したかと思います。

だから、初動プラスアルファやっと本格的に取り組み始めて8割ぐらいがまあまあ動いている、それはそれとして今後もやってねということで、割とさらっと流してしまって、課題のところに集中をした、去年は大体中間だから、いよいよここからあとどう改善するか勝負ですよというので、ここで頑張ってくださいというポイントを絞り込んでいったわけですよ。では3年目が終わって4年目も半分たった時点での報告としては、どういう観点から我々のメッセージに焦点を合わせるのがいいか、これについての方向性がほぼ今日の段階で見えてくれば、あとは表現を調整するぐらいで仕上げられるのですが、それがなかなか焦点を絞れないのだったらもう1回こんなふうになったらどうでしょうということも9月にもう1回予備日を使って議論をしなければいけないだろうと、そんなふうにおっしゃっているのですが。

○木島委員

それによって多分提言もすごく変わってくるのではないかと思います。

○廣瀬委員長

そうだと思います。

○福崎委員

まずは個々人がどう考えるかというところの視野から始まるのではどうなのですか。

○廣瀬委員長

それが今日の一番重要な議論だと思いますけれども、少しその手前で表現とかで気になったところで、さっき22ページの本文の5行目のところですよ、4行目、5行目、評価委員会の評価と内部評価の差はほとんど見られませんでしたという表現があるのだけれども、いや数字の上ではそうなのだけれども、実はというので23ページが出てくるわけで、これつまり数の上では「a」、「b」、「c」、「d」の評価についての数の上での集計をするとそんなにぶれはないのだけれども、個別に見ると行ったり来たりでもってずれていくと、実はずれている項目がもっと多いというのが次のページに出てくるので、変な話22ページの表があることによってミスリーディングなのですよ。行き来があつてずれはもっと多いのだったら、この集計をすることの意味は実は余りなくて、この表自体はむしろ外してしまったほうが、ずれというのはどういうふうにあったのでしょうかということ、差があったものというのは、23ページの表のほうもストレートにぽんと出して、その内容についての説明をするというほうがいいだろうと思いますけれども。

○井上総合政策監

余り書き切れてないところがあるのですが、少し最後にまとめてさらっと書

いてしまった。去年も一体評価していきまして、評価というか、分析していきまして、去年は点の差でしたけれども、差がついたのは何かというと、市ではいろいろ頑張ったという、目標のハードルが高かったりとか、あるいはいろいろ工夫をしたというものに対して加点をしているのだけれども、少し言い方悪いですけれども、結果がなかなか伴っていないものに関しては、評価委員会の皆様にはそれは加点とはいえないのではないのということで、そこで差がついたというようなことを報告書の中にたしか記載してあったと思います。今年も正直いうと同じ傾向が見られるかなというふうに見ていきまして、特にプラスがついているものが評価委員会のほうの評価としては、プラスが外れていると、内部評価がスタンダードなのだけれども、評価委員会の評価でマイナスがついているものというのは、多分先ほどありましたように、ばらつきのところでも出ましたけれども、複数の要素が入り込んでいるもので、市としてはその中で都合良くと言ってはあれですけれども、できているほうを選んでスタンダードにしているのだけれども、評価委員会の皆様のほうには遅れているところがあって、遅れているということは、やはり何かそこは工夫が足らなかつたろうということで、マイナスをつけていただいている、そういうところがあるように思いました。そこはもう少し書き足しをしたいと思います。

逆にそこからやはり内部評価と外部評価を皆様にしていただいたところの大きな意義だということですので、委員長おっしゃっていただいたように、余りずれてないところを強調しても余り意味ない、去年もありましたけれども、それよりは違うところにポイントを置いた表現ぶりにしたいと思います。

### ○廣瀬委員長

それでは、今年のメッセージの出し方の焦点をどんな考え方でどういうふうに端的に言うと、つまり今年の評価としてはここを受け取ってくださいというメッセージを出したのですね。去年はいよいよ後半に向けて遅れているこういう点、こういう点に気をつけて改善してくださいというのを一番重点に置きました。今年やったとしても、残り半年にぎりぎり間に合うぐらいの話なので、かつ今年の議論の中では、例えば3年少々前のもの、つまり当初に計画を立てたときの見込みについて、社会経済情勢が変わってしまったからもう当てはまらないでしょうというものもあったように思いますし、いや、ある種現実についての明確な情報を踏まえる手前の段階で目標設定をしたり、計画そのものを取りあえず確定してしまったのではないだろうか、動き出してみるといや現実とは違うなということがわかってきたのだけれども、なかなかそこで、でも当初の工程表や目標は立ててあって、若干の見直しをしつつも少しその中では成果が上がったということの起きにくいものがあつたかと思いますが、そういうことが見えてきたことは、今年の評価の特徴の一つであつたことは確かだと思います。

それは書くとすれば、その領域について今後の市の取組に対しては、こういう観点からもう1回課題を位置づけ直して洗い直して、次は成果が出る形でもっていってくださいというのが一つあります。

あとは記憶の中であるものは、これは去年とも同じですけれども、つまり相手方もあるので、それは相手方があって予定のとおりに進まないというのは、その交渉の持ち方だとか、説得の仕方や情報提供において市の努力に取り組方にまだ課題がありますよということもあるだろうけれども、やはりそれだけではなくて、市の一存だけで予定したとおりに進むという性質のものではそもそもないので、遅れているかもしれないけれども、逆にいえば強引に予定どおりに進めるよりも、きちんと合意をつくりながらそのかわりきちんと目指すところに向けて動いてくださいという種類のものもあったようにも思いますし、それはもう4年目に入っている段階では、それはそういうことで時間の遅れはあるかもしれないけれども、質を損なわないで時間についてはある意味度外視をしていいとは言わないけれども、遅れた分を取り戻すべく頑張ってくださいみたいなものがもう1個あるだろうと。

#### ○木島委員

「c」と「d」の中でも委員長の言われたようにやむを得ない理由づけができるようなものがどのくらいあるかという、逆にそこに理由づけができないものはどうしようもないというか、本当の遅れというか……。

#### ○伊藤委員

23ページの健康・安全・安心というところの40番、民間住宅の耐震化補助事業を拡大しますということですが、当初は住宅の耐震化補助事業を何件予定して、24年度は何件やって、合計で今こういう状況だからこういう進捗の具合ですという具体的な話が市民から出るだろうと思います。抽象的な表現だけでわかりましたという話には、なかなかかなりにくいというのが市民の感覚だと思います。

その上の39-3の万全な危機管理体制の構築の中で、防災ボランティアコーディネーターの養成というのは、各地域、あるいは学校などにどのような配置を組んで、内容はどういうことをやろうとしているのか、現実問題としてそういう意見が出るだろうと思います。避難場所運営体制については、私は今これにかかわっていますので、例えば統括班、情報班とか食糧班とかを配置して地域でやるということになってはいるのですが、各学校の避難場所に地域によっては一つの自治会で5人ずつ出せと言ったときに、二つの学校にまたがるような自治会だと何十人となってしまいうわけです。そうすると、班体制そのものがとれないという現実の問題もありますので、「a」のマイナスとか「a」のプラスとか単純に評価するというのは非常に難しいところです。

#### ○井上総合政策監

どちらかというところのところにそういうようなご意見は、昨年までもそうでしたけれども、今年度も入れていきたいというふうに思っています。

#### ○伊藤委員

51-1の下水道とか、都市公園とか、整備についての箇所とか、あるいは予算的なこととか、それが増えたとか減ったとか、そういうことも質問として出る可能性もあるということです。

## ○福崎委員

今の伊藤委員のことを踏まえて意見を考えると、例えばこういった抽象的な分析を先に持ってくるよりは、市民の関心というのはどっちかというのと、この49ページから始まる具体的な項目ごとにどういう視点があったのかとか、何でプラス評価、何でマイナス評価をつけたのかという具体的なコメントというのをやはり知りたいというか、読んでもらいたいというものにも考えられます。思い切ってこれを最初に持ってきてコメントを分析するぐらいの勢いのほうが市民にとってはより読みたいというか、市民の問いに直接答えられる報告書になるのかもしれないですね。でも最初にこんなボリュームのあるものをぼんと持ってくるちょっと読む気が薄れるかな。

## ○廣瀬委員長

さすがにそれはやはり分析をした特徴、重点的に見なければいけないコメントを、ある種こういう種類のコメントがついた事業は幾つぐらいあってこういうところに課題が見えていますとか、その分析を経たものでないと、やはり生のことをいきなり120何項目に何十ページにわたって出てくると、それはやはり読めと言っても無理という話になりますから。

## ○福崎委員

そうするとなんか「a」、「b」、「c」の評価がどうだったというよりは、コメントの分析というか、幾つか例えば重点項目と挙げていただいているもの20事業とかの中で少しコメントを拾ってとか、評価に差がついている12事業とか15事業の項目の中でコメントを拾って分析するというようなコメントの分析というのもひとつ必要になってくるのかと。今回市民がやはり知りたいところというのは、「a」、「c」とかそういうのではなくて、結局この点はどうなっているのみたいなことですよ。情報というのではないのですけれども。

## ○伊藤委員

例えば、1-3の現場訪問では、訪問先でどういう話をしてどういう内容でそれに関することで行政がやるべきことは何かという話まで聞いた上で訪問しないと、ただ行っただけでというのは、もう4年もなるのに何だという話にもなると思います。

## ○廣瀬委員長

49ページのI-2のタウンミーティングを全10区で計40回開催というところの意見の中にも、そこで得た市民の声を反映させる仕組みが急務だとか、何が得られたかについての説明がなされる域にもう入っているのではないか、何回やったということだけではもうないでしょうという意見もついているわけなのですよね。そういう要素を数字的というか、グラフとかそういう話ではないのだけれども、つまり取組をしたということは、評価の対象としてはまずやってないことに対してやったのだから、その評価はするのだけれども、そろそろ取組んだではなくて、取組んだ結果こういうことが得られましたというところまで見えてこないといけないのだけれども、そこは必ずしも「b」

以上の評価がついているものについても明確に見えているかということ、見えていないものもまだありましたと、そういうことがもっと検討しなければいけないのではないかと、問題提起がされていますよというのは、メッセージとして入れておいたほうがいいですよ。

### ○井上総合政策監

昨年、それを提言の中である程度巻き込んだということだったのですが、一つは13ページ以降の個別の分野のところは、個別事業の単位になると本当に最後の資料になってしまいますので、分野のところでもそういうようなところをもう少し書き込めるかどうか、行動宣言のところは実は数が少ないので全部で5事業しかない、そういうところまで含んで、あと進捗度がすべて「b」ということもあって、中身に立ち入って書けるのですが、このボリュームだと少しほかの分野のところは事業数が多かったりとか、進捗にマルがついているとか、その解説だけで手いっぱいになっていて、そういう定性的なところまで書き込めてないので、例えばこれを一分野1ページぐらいまで書くということになると、個別の中でそういう後ろのコメントをもう少し分野ごとに集約してこの中に書き込めるというようなことがあります。

行動宣言の話は、今ご指摘もありましたけれども、例えば条例の中だとその条例をつくった後、ほったらかしにせずきちんと計画をつくってそれがどう達成したかということに関しては、一応やっているのではないかと、逆でプラスのようなこともあるでしょうし、多分今おっしゃっていただいたような防災のところなんかにしても、数はできている、実際に運用がうまくいっていないのではないかと、防災のところもありますし、子どものところでも教育の公民館の親の学習ファシリテーターみたいな話などもありましたので、そういうところはもう少し集約すると、全部に集約してしまうとちょっと去年みたいな非常に丸とした集約に、それはそれで抽象的になってしまうので、分野別にやってみるということはできるかなと思います。どういう集約ができるかどうかはやってみないとわからないです。

### ○三浦委員

伊藤委員がご指摘された避難場所運営委員会の問題もそうですし、それから児童相談所の案件もそうですし、土チャレや放課後チャレンジスクールなど、数値目標を立ててやってみた結果、課題が明らかになってくるというたぐいのものがようやく出てきたのではないかと、思うのです。それはやった成果の一つだと思うのです。

避難場所指定というのは、避難場所運営委員会がなくても地域防災計画で場所だけの指定はされていたのだけれども、3.11のこともありますが、避難場所の指定をただで何も事業も施策も持たなかったら、災害に襲われたときは大混乱の避難所が各所にできるからです、避難場所運営委員会という組織化の事業を推進したことによって、実際それを担う自治会が、自主防がどういうふうに関われるかという課題がより具体的に見えてきたということなのです。それを積極的に評価して、次の段階に行政の支援と地域の支え



というのをどうやって一緒に構築するかというステップアップの段階だと思  
うのですね。ですから、市民評価では課題が見えたことについては、応援のニ  
ュアンスを込めて次の段階にステップアップする課題が明確になりましたね  
というコメントがついてもいいように思います。

片や数値目標を立てながらも課題分析がやはり甘くて、ただ何となくPRや  
回数ばかりを稼いでいるけれども、参加人数が増えないとかそういう案件あり  
ますよね。そういうのはもう少しちゃんと課題を分析して進むべき道が誤って  
ないかどうか見直すべきだというコメントもぶつけていいと思うのですね。そ  
ういう印象を持っています。

### ○廣瀬委員長

かなり重要なポイントになるご指摘をいただいたかと思いますが、今のところ  
の書き方は、13ページぐらいから分野別で各分野半ページでグラフを入れて  
構成比を出しながらのコメントにはなっているのですが、このスタイルでい  
くのがいいのか、一つはこれを各分野1ページぐらい使って、行動宣言で1ペ  
ージを使うのはちょっと苦しいかもしれませんが、一定数の、例えば行財政改  
革、子どもの事業などを何十事業もあるものについては、もう少し丁寧に書き  
込みながら、この領域に特有の課題が見えてきたものについては、ここで書い  
ていくという書き方になっているわけです。

ただ、他方で今三浦委員がおっしゃったような分析の仕方だと、恐らく領域  
ごとの特性というよりも、課題としての特性で、多分領域間にまたがって同じ  
タイプのものであるのではないかなという気がするのですね。具体化したから  
こそ課題が見えてきたとか、やってみなければわからなかった難しさというも  
のが確認できたのだというのは前進だけれども、空振りしているのだけれども、  
とにかく頑張りズムで何とかしようということしかやっていなくて、課題その  
ものの中身に踏み込んでないのではないかと、少なくとも踏み込んでいるという  
情報は提供いただけなかったという印象を持っているというのがこれも結構  
いろいろな領域にあったような気がいたします。

そういう観点からいくとこれは提言のほうに持っていくのか、領域ごとのと  
ころは今ぐらいのボリュームで、ただちょっとグラフのボリュームをというか、  
スペースを縮減していただいて、各項目に2行ずつぐらい文章を増やす程度に  
しておいて、それから分野別ではなくて課題としての洗い出したいなことを、  
これで言うと全体があって分野別があって、分野別が②となっていますけれど  
も、③みたいな形で今年の評価結果から見えてきた課題、何がどういうふう  
に進み、何がどういうふうに進み損ねているかみたいな話を③として入れて、そ  
れから変化について(2)へ進んでいくと、そういうやり方があるのかなと。

### ○木島委員

その先生の意見で賛成です。そのほうが分野にとらわれずに1個項目をつく  
ってしまったほうがいいのと、あと先ほどおっしゃられた評価がもう難しいと  
いう、もう時代が変わっちゃっているみたいなものもそういうところに入れて  
もいいのかなと、すごい賛成です。

## ○河西委員

三浦委員とか木島委員とかあと伊藤委員がおっしゃったように、評価させていただいてヒアリング、説明を聞いて、さっき委員長がおっしゃったように、計画があって目標があって実地があって希望があったのだけれども、実質的なことがわかってきたのは今回だという感じでとらえたとしたら、やはり少子高齢化が進んでいく中で、それから、4市合併の政令都市の中で、個々人が持つ希望というのを高く持つというのはとてもいいことだと思うのですが、間違いなく進む高齢化の流れに備えて、どこの分野で辛抱や我慢が必要なのか、そのことによってどうやって進歩できるのかということのを対策として打ち出す必要を強く感じた委員会だったと思うのですね。だとしたら、市民の皆さん全員に戦争中ではないですけれども、辛抱や我慢の課題と対策案が必要でそういうのも強く提示し評価していかないと。事業の目標に大きくずれはなく順調ですと、だからこれで問題なしというだけでもないなということがわかるような形をつくって示して、希望的な部分と訂正を含めた課題の部分ということの記入があるといいなと思いました。

## ○井上総合政策監

今のご意見等に関連して、報告書がまだ仕上がったばかりでもうちょっと追加しなければいけないという部分の一つの要素に、最後の提言のところは今回どちらかというシステム的なところしか書いてなくて、計画の作り方だとか、あるいは施策の推進に当たってと、去年はここに実際の施策の中身の話、一つ一つは個々人の意見としては個々人に書いていただくところでお書きいただくにしても、総意としてこんなことはやはりやってほしいということをもとめて提言の中に分野として書き込んだ部分があったのですね。防災の話だとか、高齢者対策の話、収入を増やす話と自治会とかの話、たしか4つだったと思いますけれども、そういうような施策の枠組みとか、そのシステムでというだけではなくて、そういう中身のところに立ち入ったことを書くとする、そういう部分はもっと頑張るといふのとプラスして、例えば今おっしゃっていたような中では、こういう部分はもっと市民に任せてもいいのではないかと、こういう部分はもっと少し市民が協力しなければいけないのではないかと、うふうな言い方を最後のところに書き込むということが何らかのそういうふうな形ができれば、最後のところにちょっと今回そういう議論が今までなかった、去年の評価報告書から比べてあえて明確にそこは実は落としたりしたところなので、議論がまとめればお書きいただくというやり方もあるのかなと思います。

## ○廣瀬委員長

どうぞ。

## ○福崎委員

今、委員会全体としてどういう方向性で報告書を書いていくかというのを議論している時間だと思うのですが、ちょっと別のことを先に触れてもいいですか。

## ○廣瀬委員長

どういう質問かによるけれども、少し待ってください。

ここまで幾つかの観点から特に分野別ではない切り口で今年の評価の中で、特にやはり重要だというふうに認識した論点、問題点、こういったことについて17ページの後ろに③という項目を立ててそこで整備していくという話になりました。

一つは、三浦委員が先ほど指摘された、やってみた結果課題が見えてきたものについては、その前進について評価しつつ、次のステップとしてその課題を解決していただくということを明確に示すと、それから逆に周知の努力だとかそういう量的な努力でカバーしようとしているけれども、どうも質的な問題点の切り込みが足りてないものがこういう観点であるのではないかと、それについては質的な分析をしっかりとすべきだという辛い評価をしなければいけないものも出てくる。

それから、市民としての行政の期待とか、少し言い過ぎかもしれないけれども、依存的な関係ではなくて、担うべき部分とか、市民との協力とかそういうような観点が必要なもの、あるいはそこに何かずれがあって、たしかシルバークンバーシティの大学院卒業生が実はボランティアとかそういうところについて期待されているのだけれども、登録をされなくて、むしろ恐らくは自分の趣味、自己啓発のために熱心に取り組んでいらっしゃるけれども、市の政策的意図としては、地域の公共的な活動を担っていただく人を育てようという意図でやっている政策とうまくマッチングできてないというような課題もありました。そういったところで、これは逆に言うとそういうことから気がついて違う観点からそういう政策に向き合ってくれる人が増えるきっかけにもなればこの評価も一つの役割だと思いますから、そういうことがあると。

あとはあれですね、これはいわば情勢の変化によるとおのずと達成されたようなことも出てくるわけですが、やはり昨年の中東大震災やその後のいろいろなエネルギー問題をめぐるさまざまな社会情勢の中で、防災や、あるいはエネルギーに関連するところについては、予定をはるかに上回って達成をされたりというような流れになっているところもあります。逆に言うと、そうすると4年前の目標ではなくて、今の情勢に合わせた形でもっと進めなければいけないのだったらもっと進めるとか、そういったことが新たな次のステップとして見えてきましたというような動きはあったかと思えます。

あと、少し思い起こしていただいて、特にヒアリングの中でいろいろ悩みながら、聞いたことをどう評価したらいいのだろうか、頭をひねったものも幾つかあったかと思うのですが、それらの記憶の中からどこにこういう点というのはいかがでしょう。

## ○木島委員

本当にドラスティックに評価ということを見ると、遅れたものに対してかなり厳しい評価をしなければいけないのかなと思っています。裏には、先ほど伊藤さんが言われたような問題があるということにも触れつつも、結果として

こういうことをうたったほうがよいかと思っ­ていまして、それで先ほどのとにか­く総括として委員会としてできたのかで­きなかったのか、プランに対してとい­うものは、決めるのか決めないのかとい­うことをちょっと話し合ったほうがい­いのかと、もしそれがうたわれなければ­個々のところでうたおうかなと思っ­ています。それが決まってくると今度提­言が決まってくるかなと思っ­ていま­し­て、ではどういふうに今後やっ­てくだ­さいといふ意見を集約すればいいの­かなと思­い­ます。

#### ○廣瀬委員長

全体としての評価、総合評価みたいなものを例えばわかりやすく言えば星幾つだみたいな話を全体としてそういうことを何らかの形の集約をして総合評価というのを出すのか、いやもう見えた課題とか、見えた褒めるべき場所ということを整理して列挙していくということであって、総合評価みたいなものはちょっと違うというふうに割り切る。

#### ○木島委員

評価をすることによって多分説明をしてくださる方々の意識も大分変わったかなと思っ­ています、去年と今年を比べても。そういう意味でもやっ­た価値はあっ­たの­かなと思­う反面、それでも2年も3年も連続して遅れてくるものがあるといふことを考えると、やはりきちんとしていない部分もあるの­かなと、それが果たして多いのか少ないのかにもつながるの­かなと思­っ­ていま­す。

#### ○廣瀬委員長

どうぞ。

#### ○町田委員

ちょっとこの総合評価というところでの自分の意見なのですからけれども、私はこれを実際にマルかバツか、どれぐらいの達成度なのかというのを全部一くくりにやるのについては、ちょっと違和感があるなというふうに思っ­ていま­す。それぞれの分野ごとでそれぞれの事業ごとに達成度というのが違ふのはその内容によっ­てもし­かるべきだし、逆にそういっ­たそれが先ほど皆さんが言っ­ているように、何で達成できた分野もあれば達成できなかった分野があっ­たのかといふところを個々に分析することに意味があるの­であっ­て、これだけ多様なものを総していい悪いといふふうなこんな簡単なものではないの­だろ­うなといふふうに私は思っ­ているの­です­ね。それがまず一つです。

あとは、今年度の報告書はどういふうにしたらいいのですかといふところでは、各論の部分は各論でもうまとめておいて、本当にその評価委員会が提言といふところを重要視すべきなの­だろ­うなといふふうに思っ­うの­です­ね。

どうも大まかな方向性とまとめ方としては、今のまをベースにして先ほど言われた今後の課題だとか、いい悪いといふ話をつなげていくとともに、あと昨年、一昨年のその評価委員会の中で、今後はどういふうにしていっ­てくだ­さいといふような目標値もあえて定めているの­です­ね。それを去年、一昨年といふふう­にやっ­てきたものについて、今年やっ­てきたものについてはどうだったのかといふところの検証がまだちょっと薄い部分ではあるの­かなと思­うの

です。なので、2年かけてそれぞれの評価書の中でそれぞれの展望と課題というのをつくってきているので、それをまたそうして今年度の中で中間的にそういったところも加筆していただいて評価委員会からの提言というふうにすればいいのかなと思うのです。

それは全体的な話であとの各論はどうするのだという中になるのですけれども、各論はそれぞれの委員さんがそれぞれの中でいろいろな意見を言うではないですか、それはもうそれぞれ委員会の中でそれぞれが勉強して自分なりに学んで本当に思いの中でやってきた内容もあるので、ここの中でこの思いというか、書いていただいて、それはそんなに大筋から外れないと思うのですよね。だからそういった形で書いて全体の評価委員会からの提言、委員の意見も含めての提言というふうにしてもいいのかなとは思ったりしています。

### ○木島委員

全くご意見、自分の立場からご意見があると思いますので、それはそういうことは思っています。なので、それが絶対というわけではないのですけれども、私なんかがいる世界というか、民間の会社にいる世界で評価といえばそれはいいのか悪いのかというのを示すというのが一つのポイントかなと思っておりますので、それはちょっと意見として出させていただいて、結論がどうなるかはお任せいたします。

### ○長野委員長職務代理

昨年の報告書を読み直して見ているのですが、あえて失敗の分析というのでしょうか、なぜできなかったのかというのは類型化されていて、目標設定は間違っているというか、その条件とフィットしませんでしたとか、それから実はスケジュール管理というマネジメントの部分に問題あってダメだったのでという幾つか失敗の原因があったものですから、恐らく同じくこの延長でやはり3年間、4年間、3年半の間の失敗の分析というのをこちらでもすべきだということになると思うのですが、逆がなかったのですね、去年は。成功の分析というか、先ほど委員長がお話になった中で、あるいは三浦さんのお話の中でもあれはご発言の裏側でもあると思うのですが、やってみてうまくいったことというのかと思うのですが、今回の評価委員会の役割は、対市民へのメッセージプラス対市の行政職員の方へのメッセージということにもなって、あっこれはうまくいっている、このやり方は実はほかの分野に応用できますというようなヒントを探し出すという役割も結果としてはあるのかもしれないので、昨年の内容をバージョンアップすることを考えますと、可能であればうまくいっている部分をなぜうまくいったのかというものがあってもいいのかなという気がしています。ただし、大方がいわゆるこの市場の価格が下がって大量に買えるようになったからたくさん供給ができるようになったというようなものが多いのではないかなという何となくそんな感じは、特にLEDの部分とか価格が下がったから、予算を決めていた段階よりも全体が変わったからというものもあると思うのですが、少なくとも両面はあったほうかというのがと思います。

それから、今年とても大きな出来事で、我々評価をやっていく上で、あまりにも頭を抱えてしまったのは、撤退という言葉がいいでしょうか、年度途中でだめと、やめるというふうにわかって撤退するというのが明らかに1個あったのですが、でも思い切って撤退するのは大事だなというのが正直思ったものでして、実は撤退を前提にするということは、実は今年の評価の中でこれ自体は評価が分かれてしまうと思うのですが、ある意味良かったというか、それが明確になったというのは、今後の行政運営にとってみれば実はよかったのではないかという気が、すみません、これは個人的な意見です。書き方としての提言、意見としましては、うまくいった部分への分析があってもいいのではないかなと思います。

#### ○廣瀬委員長

ほかのうまくいってない領域に対してこういう成功例をきちんと踏まえてくださいというメッセージになるようなタイプのうまくいった例、状況に救われて何もしてないのに達成できてしまったというのも中にはあったような感じがするので。

#### ○長野委員長職務代理

ですが、うまく工程表を設定したことによってとか、あるいは部署間連携だとかというのもあるのではないかというのがありまして。

#### ○廣瀬委員長

成功の分析・・・

#### ○須藤委員

今、私も長野さんと同じような意見なのですが、まず一つはできなかった分野、21ページに「c」とか「d」とかというのがありますが、そこをきちっと分析すると、なんかそれはある程度パターン化されてくるのではないかなと、どこがネックになっているのかというものがわかると、この21ページのところの書き方を工夫してこういう事情、なんか幾つかパターン化も多分あると思うので、そこから将来に向かって参考になるものが出てくるのではないかなという気はします。

それから、それと逆でやはりよくできた部分という、「a」とか「a+」こういったものはやはりどういった理由で、あるいはどういったので良くなったのかというところをうまく立ち上げてあげることによってそのほかの事業にも参考になってヒントが出てくるので、できなかったものをきちっと分析してそこから引き出してくると、それから、逆によくできた部分についてそれが類型化できるかどうかわかりませんが、幾つかの事例を出してそれをほかの事業につなげていくというような分析なり書き方をしたら少しメリハリがついたあれになるのかという気がします。

#### ○廣瀬委員長

では、河西さん。

#### ○河西委員

うまくいったことって、例えば自動的にうまくいったということだけではな

くて、震災をきっかけに市民の中に節電の意識がいっぱい高くなって、だからそれから防災に対する意識も高くなってということで、緑化が進んだりだとか、ボランティアが増えたりとかと、その表れというのはこれまで周知が足りなかったという理由が事業の遅れの原因としていっぱいあったと思うのですけれども、周知・広報され、知ったこと、感じたことでその結果市民が動いたことというのはきっといっぱい早くうまくいったと思うのですね。健康づくりにしても、なので、プラスとマイナスの課題を市民に知ってもらおうというのがとても強く表現できればいいなと思っています。

### ○廣瀬委員長

それでは、先ほど木島委員が提言された全体としての評価というのをどうするか、やはり評価という以上総合評価としてよくやっているといえるのか、やはり課題がいっぱいありますよということで厳しい点になるのかということがあったほうがいいのか、いや大分性質的に違うものを100何十項目集めた計画なので、それを無理やりに集約するよりは、やはりそれぞれの項目やそれぞれの特徴に応じたプラスの方向もマイナスの方向も指摘を明確に出していくということを中心として、あえて総合評価というものはしないほうがいいのかというご意見等ございました。いかがでしょうか。

### ○長野委員長職務代理

一個人としての意見なのですが、この進捗評価で「b」がつくというのは、1年間の多分こうなるだろうという予測のもとに設計した工程表、目標設定とか、それから講じようとした手段、この組み合わせがうまくいったと、だから「b」という評価を得るということになりますので、全体として「b」が多かったというのは、そういう広い意味でいうと施策の組み立て力というのでしょうか、それがよくできたというか、満足できる水準にあったということを示すことはいえると思うのですね。

だから、総体としても100数十項目も一度「b」が多かったのがあるならば、そういう組み立ての水準というのがいわゆる満足できる水準にあるということは言えるとは思いますが、その組み立て力という仮称で使ってしまうけれども、それがある程度の水準のものだったということが言えると思うのですが、それが市民生活にとってプラスだったのかマイナスだったかというのは、実はこの点検からはいえないということになるかと思えます。

そういう意味で、木島委員の話があった総合評価ではということに対してどう考えるかということですが、私の意見としては「b」とかが多かったのであれば、その組み立て力が行政での体力というのでしょうか、知力というのかわかりませんが、それがこの水準だったということは言えるというふうに思います。そういうことでしか言えないのではないかなという気がしています。

### ○須藤委員

その今のところですが、11ページにこの円グラフとありますが、上に出ていますよね。これを見ればおのずとそこでその市民の皆さんはどうだったかなというできばえがわかる、あえてそれをさらに一くくりにして、この円

グラフをさらに縮めてこれでおおむねうまくいっているのか、あるいは三角だとかという必要はないかなと、ここにはっきり円グラフの目標がおおむね達成しているものが60パーセントで、上回っているのが何パーセントだと分析が出ていますので、これを見れば市民はそれぞれこんなできばえなんだというのはわかるので、あえてそれをさらに一つに集約する必要もないのかなという気が私はしますけれども。いろいろな事業をやはり一言で言うというのはなかなかちょっと難しいのかなという気がしますので、この円グラフで十分だと思いますけれども、若干のコメントは入れてもいいのかもしれないけれども。

#### ○橋本委員

私も総合評価の部分ということに関しては、やはり11ページの表をきちんと出していくということが一番かなと、やはり評価という総括という話をしていくと、どうも我々市民評価委員ってどこまでやるのだったのかなというすごくその線引きが非常にあいまいになってしまうというか、多分見に来ていただいた方なども市民評価委員って何をやっているのかというのがすごくあいまいになってしまうので、やはり報告書でもう一度しっかり何に対して私たちは評価をしたのかというところは、もう少し私もわからなくなってしまうので、そういうことがしっかり読み取れるような表記がやはり必要かなと、その上で長野委員が言われたしっかり計画を立てたことに対して実際どうなったのか、そこからやはり私たちが見えてきたものということでの所感、あるいは提言というものをまとめていくという、このフォーマットをしっかりとずらさないようにしておけばいいのかなというふうに思っております。

#### ○廣瀬委員長

どうぞ。

#### ○河西委員

その円グラフなどを見て長野先生がおっしゃったように、「b」が「b」であるということは、どの事業もとても平均でいけてなお平均プラスのところもあってというような評価なのだとして示しているとしたら、そのことを先ほどの民間感覚でいくというふうにあって言って、マルかバツかというふうにと考えると、マルだからそれって安心なことですよ。だから、4市が今のままばらけたままで協力体制を持たなければこれからの発展につながらないということまでは伝わらないけれども、今後の先を見ていった少子高齢化もそうですし、観光のこともそうですし、団結をしないといけないのだ、必要なのだということは伝わらない。平均が平均のまま今やれていることの提示だけだと先のことは気がつかない、見えないと思うのです。確かに一つ一つ説明いただいて評価したというのは本当にこのとおりで間違いはないのですが、理想を言えば、市民が先のことを考えればもっとできることがあるはずです。震災を待っているわけではないし、日本経済が崩壊していくことを待っているわけでもないですけれども、協力感が必要であると深刻に考えるというよりは、まあいいかのラインで問題ないのだからとどまっていると思います。けれどもこれからは、協力体制、市民の協力体制を強くしていくためのメッセージにつなげていくのは必要



ではないかなと。

### ○福崎委員

先ほど橋本委員がおっしゃっていたことが本当にすごく重要なことだと私思いました。市民評価委員会が何をやっているのか、またどこまでやっているのかというのが報告書を読んだ市民の方にあいまいになるようでは本当に困ると思います。

例えば、38ページの「おわりに」のところに文章で簡単に市民評価委員会が何をやったかというのがまず書いてあります。ここが今年度の評価委員会ではヒアリング、書類審査を通じて昨年度の報告書を踏まえた市の取組状況を精査いたしましたというので1回丸で区切って精査いたしました、この表現で完璧かというのはちょっと疑問なのですけれども、ここの最初の一文で市民評価委員会はこういうことをやっていますというのがまずはっきりわかるようになったらいいなと思います。その後で精査した結果というのが、もしここに書いてあるとおり評価を8割の事業が目標達成していましたということだけで終わるのだとしたら、私たちは個々の事業の評価を行ったということになると思います。もし、ここにプランとして満足のいく水準であったとか、このプランというのはほぼ市民の満足度を底上げすることができたというようななんか総括を入れるのだとしたら、私たちはプラン全体のトータルの結果というのも評価したというふうになると思うので、大きな私たちの方向性というのを決める一言にはなると思います。そういう言葉があるかないかということ。

私は、まだちょっと迷っているのですけれども、実際にこの2期参加させていただいてやってきたことというのが青い冊子になっているプラン、1冊にまとまったプラン全体というのがどうだったかというよりは、まさに市の取組状況ということで、個々の所管課の方々がどういうふうに目標を立てて事業を実施されていたかという個々のものを評価してきたと思うので、総括としては全体の事業では11ページにあるようなこのようなできばえだったという分布を載せておくので終えてもいいのかなと思います。

### ○廣瀬委員長

あとは評価委員会としてということはこの今年度の評価委員会からの提言や、あるいは評価委員会の「おわりに」のところで書くことを今年度の委員会として書くだけにとどめないで、過去3年間市民評価委員会、メンバーの若干の入れかわりはありますけれども、市民評価委員会による評価を年々重ねるということをやってきて、恐らくプランそのものが来年また改定期に入っていくので、同じ体制でもう1回やるということではない可能性も高いと考えるならば、このシステムそのものに対するやってきた当事者としてのメッセージをここの特に「おわりに」のところには明確に出したほうが良いような気がするのですね。

先ほどちらっと出ていましたけれども、年々重ねてくる中で、ヒアリングのときの説明が率直に申し上げて初年度は何かこういうことをやっておりますということさえ言えばそれで済んだかのような感じの説明が比較的多くて、そ

れでそれはつまりどういう意義があったのかとか、それによってどういう成果があったのかという種類の質問をしても何が問われているかちょっと反応できないみたいなことが結構見られたのです。それに対して今年度について言うと、むしろそういうところの中で、当初のねらっていた効果と現実との間にこういうギャップがあってどうするかを悩みながらやっていますみたいな話をちゃんと明快に判断ができるかどうかは別として、少なくともそこに自覚的に取り組んでおられる例も多かったし、そういうことをめぐって議論が成り立ったとは思いうのですね。その変化というのは、やはり質的な変化として3年やったことの意義として「おわりに」のところでも述べたほうがいいのではないかとはいいます。

ただ、他方で3年やっても変わらないところはなきにしもあらずというものもあるかということではあります。

だんだん時間がなくなってきましたから、最終的なまとめ方については確認をしたいと思いますが、全体についていうと、まずは11ページの表のような形から読み取ってもらうということを基本にしながら、あえて総合評価、全体として100点満点で何点なのだとか、「a・b・c・d」でいうとどうなのか、そういう形の評価を示すということではなくて、ここから読み取っていただきつつ、課題については先ほどまで議論をしていたような形で課題としてとらえます。成果についても洗い出した上で、課題の残っているところが成果を上げた領域をうまく学びとりながら使っていただけるようにということはある程度意識しながら、よかった部分についても触れるということは確認できたかと思えます。

あとは、全体の「b」だということはどう読み取ったという点については、先ほど長野さんがおっしゃったようなことをどこかで触れたほうがいいだろうと思います。予定どおりに進捗をしているということは、もともとの工程表が現実的に踏まえられ、現実を踏まえて目標に向かって着実にできることを書かれていればよほどのことがない限りきちんと進んでいってそれができる体制がおおむねのところにあるということは確認できたということだけれども、逆にいうとそれが取り組まれたことによって市民生活に期待された成果が上がっているかないかということも自動的に保障しているわけではありませんよと、そのほかでやったことによって具体的な課題が見えてきたポイントというのがあって、それはある意味で壁にぶつかるかもしれないけれども、質的には前進だということの評価できるのではないかと、他方で淡々とやっているのだけれども、質的な分析がきちんとできていないところでは、「b」かもしれないけれども、決してそんなに褒められた状況ではないという部分の改善がこれから求められていますよということがあるかと、全体としてはここまで議論していたことを踏まえての分析とともに、今みたいな話が全体についての関連では出てくるところかなと思います。

### ○三浦委員

今、委員長が発言された中にヒアリングで受けた印象が含まれていたと思う

のですけれども、今までの報告書も今年度のこの報告書もヒアリングの印象が文章化されてないのではないかと思いますね。まさにヒアリングを通じてこの評価委員会という場が設けられていることの効果が感じられたというのも私も率直にそう思うので、そういうことを少し触れてもいいかなという感じもありました。

#### ○廣瀬委員長

それはぜひやりましょう。

それでは、時間が大分押してきましたので、では福崎さんから個別的に別な観点から今日の段階で指摘しておきたいことということがありましたので、お願いします。

#### ○福崎委員

93ページから始まる内部評価、平成24年度の内部評価の一覧なのですけれども、これは私たちの報告書に載せる必要があるのかということをおまじつと聞いておきたいなと思います。前のところにも内部評価をまとめたページ2ページ分使っているところがあると思うのですけれども、この内部評価というのがあくまで私たち市民評価委員会が今年度の評価をする参考する上でいただいた資料ということで、こういう資料をいただきましたということは報告書に述べる価値はあると思うのですけれども、ただこれを10ページ以上使って報告書の中に載せるのはちょっと違うのではないかなと私は思います。

例えば、ホームページが最後掲載されているので、ここで内部評価の一覧というの、平成24年度内部評価一覧というのを見ることが出来ますという形で触れて、市が私たち評価委員会に出した、提供した資料のように、また市民の皆さんに対しても市から提供する資料という形で出してもいいのではないかなと思うのです。そうするとページも減りますし、ボリュームがすごくあるので。

#### ○三浦委員

これは、でも目標なのですよね。24年度の。

#### ○廣瀬委員長

そうですね。

#### ○三浦委員

だから、こういう目標を立てて今年度取り組んでいますという情報提供だと思うので、あっていいように僕は思ったのですけれども。

#### ○福崎委員

私たち評価委員会が提出、報告書の中に出す資料としては適切なのでしょうか。

#### ○町田委員

僕もこれは載せていいと思っているのですね。だから今年度の報告書があって、では来年度どうするのというところってあるもので、もちろんこれは今年度の報告を受けて、またさらにこれは変更にはなろうかと思うのですけれども、現状の来年度への取組としては、逆に市民サービスとしていいのではないかと

思います。

### ○井上総合政策監

私が言うのもあれなのですけれども、ただ単に内部評価と括弧書きで書いているだけではその辺が伝わらないというのがあるかもしれないので、もし仮に載せるとしたら4年間の達成度については、評価委員会として評価したものでないけれども、今年度の評価の参考として市から情報提供があつて、なおかつ今年度こういうことで取り組んでいるという情報にもなるので、参考までに載せますというふうなリード文を入れたほうがいいかなという気がします。そうしないと何か評価委員会として評価してこうだというふうに誤解する可能性もあるかと思うのです。仮にもし今ご意見でそれはいいのではないかという話であればそういうことは必要かなというふうに感じました。

### ○福崎委員

それと合わせて注釈を入れていただきたいのですけれども、28ページから始まる表の一覧の中で、達成度で平成21、22、23年度の評価というのが恐らく私たち委員会がとった外部評価で、それと合わせて4年度達成見込みのところでも内部評価が並んで載っているのだとしたら、ちょっとこれもミスリーディングというか、わかりにくいと思うのですが、これって内部評価が……。

### ○井上総合政策監

ついているのは外部評価です。単年度のほうです。前回の評価ですけれども、これがいいかどうかというのがあつて初めに説明の中にもありましたけれども、一つは重点項目で須藤委員から前回おっしゃっていただいたときに、倍增プランのこの青い冊子のほうをご覧いただいてご指摘いただいたのですが、改めてつくってみるとこれ実は枝番が全部集約してしまっているもので、非常に何か重点項目が重点っぽく見えているものですから、実際は枝番があるとずらっとこれだけ並んでしまう。この中にとりあえず個票まで含めて入れましたけれども、逆に同じデータが後ろにあるので、ここは合計の集計表ぐらいでとどめておけばそれで十分かなという感じもしますので、ちょっと表のつくり方それぞれ前回ご指摘あった重点項目とそれからプロジェクト分野ごとというのは、一応集計表と個別のものと全部中に差し込んでみましたけれども、結果としては回りくどいし、本文の中に書くにはちょっと情報過多かなという感じがしています。

### ○廣瀬委員長

やはり、27ページと30ページがあればよくて、このずらっという一覧表は、情報として後ろに出てくる個別の集約を見れば、もう少しコメントも含めてちゃんと載っているわけですし、あえて言えば何が重点項目だったかということをごどこかに表示が入っていましたか……。

### ○井上総合政策監

それは入れることで大体できるかなと思います。

### ○廣瀬委員長

あと、先ほどの福崎委員からのコメントとの関連で、32ページ、33ペー

ジを本文の欄に入れるかどうかですね。これももう時間がないので、私の意見で述べますと、32ページ、33ページをもう少し簡略化して、つまり全体としてはこういう内部評価の結論としてはこういうふうな数字が出ていて以下このとおりですと、これはあくまで内部評価で、ただ現在も既に最終年度の実施が半分済んでいる段階なので、最終的に今年度終わる段階でどこまでいけそうかという参考情報として資料2の中に掲載をしますということを、32ページ、33ページに書いてある情報も含めてリード分として1ページ分ぐらいにこれを集約して、そしてその後ろに93ページのところにこれを1ページ分としてリードを兼ねて入れて、それ以下にこの表を入れるということでしょうか。

(「はい」の声)

それでは、今日いろいろと論点が出てきましたし、提言の仕方についても意見がありましたので、まず9月4日予備日ですが、これはやはりあとはもう持ち回りで確定というのはちょっと危うい気がしますので、大変ご負担にはなりますが、9月4日予備日を使って最終の確認の会議を持ちたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。それで、場所は第15集会室と書いてありますから違う場所になりまして、9月4日の19時からで、それに向けての今日の議論を踏まえての素案の改善ということの準備をしていただきたいと思います。今日出た議論以外も含めまして、先ほどその分野に区切らないでも分析として指摘すべき事項、それから今回の全体を通しての評価委員会からの提言、このあたりを特に重点的に目を通していただいて、提言としてはこういうことを盛り込むべきではないか、評価の観点としてはこういうことを指摘すべきではないかということについて、これは準備の都合上、いつごろまでだといいでしょう。29日ですか。

#### ○鳥海主幹

実は、お手元の封筒の中に1枚ペーパーが入ってございまして、報告書に載せてさせていただきたい委員さんの所感の部分にかかわる原稿の用紙でございまして。まことに勝手ながら、こちらの用紙を8月29日までお出しただければと存じます。

あわせまして、今ご指摘のありました提言等盛り込む事項につきましてですが、特に様式フォーマットはありませんので、様式は自由という形で、両方も来週8月29日水曜日までにお出しただければと存じます。1週間と期間がございませんが、よろしくお願い申し上げます。

#### ○廣瀬委員長

それでは、そのような形でお出しをいただいたものを踏まえて、9月4日には一たんのこの報告書の中にこういう構成でこういう文章でまとめてみましたという形でお示しをしてそれを確認いただきながら最終報告書の確認を9月4日に行うということにしたいと思います。

それから、当日の進行につきましては、今日既に次第は配付されておりますけれども、9月4日やるということで今ご確認いただきましたので、これにつ

いては9月4日の段階で確定をするということによろしいですか。

(「はい」の声)

それでは、次回9月4日に最終的に取りまとめをするということにしたいと思えます。

### 3 その他

#### ○廣瀬委員長

では、次第のその3のところにその他とありますけれども、何かそのほか連絡事項や確認しておきたいことなどありますでしょうか。

#### ○井上総合政策監

次回に向けてということで、今お願いをしたものにプラスしてですけれども、今日の配付資料の中に昨年の評価報告会に参加された方のアンケート、それからその際の質疑応答の部分のやり取りを添付させていただいております。また一応前回は前提に報告会の次第、今年度の担当の方の名前を入れていない次第がついていますが、次回9月4日のときに、去年やってみて、あるいは去年やった結果の反応を見てこうしたほうがいいのかというような報告会の持ち方のほうでご提案があればいただきたいと思えますので、去年は参加されない方は紙だけになりますけれども、そういった意味でもお目通しただいて、あるいはご提案いただきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

#### ○廣瀬委員長

それについては特に事前でなくても9月4日の委員会に持ってきていただければいいということですね。

それでは、よろしいでしょうか。

(「なし」)

### 4 閉会

#### ○廣瀬委員長

それでは、もう一度会議を開催するということになりましたけれども、どうぞ終盤まとめということでよろしくお願ひいたします。

では、今日は以上をもちまして終了といたします。ありがとうございました。